

第2学年C組 国語科学習指導案

授業者 小松田 ひかり
研究協力者 阿部 昇, 成田 雅樹
教材分析協力者 大橋 純一

1 単元名 できごとや気持ちがつたわるように書こう～2年生は、楽しいよ～

2 子どもと単元

(1) 子どもについて

書くことの学習において、「かんさつ名人になろう」では、モデル文をもとに、観察したことを詳しく書くために必要な事柄を考える活動を経験している。また、大きさはたとえを使うとより分かりやすくなる等の書き表し方の工夫を見付け、それらを使って観察記録文を書いた。

「こんなもの、見つけたよ」では、「初め」「中」「終わり」の組み立てで家の人に向けた報告文を書いた。こうした学習を経て、「中」には書きたいことを詳しく書くという組み立てを学んできた。

これまでに子どもたちが書いた作文から、次のような2つの実態が見て取れる。1つは、目安の文字数に達しなかったり、同じことを繰り返し書いたりしている作文である。これは、書く事柄が足りないためであると考えられる。もう1つは、テーマと内容がずれていたり、書かれている事柄が混在していたりする作文である。これは、何を書くのか曖昧なまま書き出したり、書いているうちに書きたかったことと内容がずれていったりしたためであると考えられる。こうした実態から、作文を書き始める前に書きたいことを明確にする力を高めていく必要があると考えられる。

(2) 単元について

本単元は、1年生が進級する期待感をもてるように、2年生で経験したことの中で楽しかったことを書く学習である。2年生の楽しさを伝えるためには、どのような出来事があったか、どんなことを感じたり考えたりしたのかを、その場になかった1年生でも分かるように、具体的に書く必要がある。書く材料が十分に集まっていないまま作文を書き始めても、具体的に書くことはできない。作文を書き始める前に自分が書きたいことを明確にするために、いかに具体的にたくさんのメモを書き出せるかが大切となる。出来事や気持ちを具体的に書くための要素として、「どうやって(方法)」「どのくらい(程度)」「どのような(様子)」「どうして(理由)」等が有効であると考えられる。また、組み立てを考える際には、たくさん書き出したメモの中から必要なことを取捨選択することで、書きたいことを明確にする力を高めることができる。

本教材のこうした特徴を踏まえ、本単元では、書かのために必要な事柄をノートやカードに書き出し、書こうとする題材に必要な事柄かどうかを確かめるという資質・能力を高めることを目指す。

(3) 指導について

本単元ではぐくむ資質・能力を高めるために、伝えたいことを具体的に書くために、様子、方法、程度、理由などの材料を集め、相手に分かってもらうために必要な事柄を取捨選択するという「見方・考え方」を働かせた学習活動を繰り返し行っていく。

まず、題材選びの時間では、書けそうな題材をたくさん出し合い、その中から1年生が経験していないものに絞っていく活動を行う。次に、メモをたくさん書き出して材料を収集し、増やした中から必要な事柄を選ぶ。作文を書き始める前に書きたいことを明確にして、見通しをもつことができるよう、メモを作る時間を3時間設定している。このように書く事柄を具体的に想起しながら広げ、そこから必要な物を選ぶ過程を繰り返すことによって、書きたいことを明確にしていく。

文章を書くときの多くは、一人で書きたいことと向き合い明確にしていく時間である。「書くこと」の学習では、学びを蓄積し、書きたいことを一人で表現できる姿を目指している。書き方を学ぶ段階においては、教師や仲間と共に学ぶことが有効であると考えられる。本時では、一人では書く材料を十分に集められなかったところについて、グループで質問し合うことでメモを増やしていく活動を設定する。このとき、どのグループでも有効な質問をし合って必要なメモを増やせるように、具体的な質問の言葉を全体の場で取り上げたい。この質問は、今後、一人で書きたいことを明確にする際に自分に向けて問うことで、メモを増やすことに役立つだろう。

こうした伝えたいことを具体的にしていく過程を仲間と学ぶ活動を通して、いずれは一人でも使えるように段階的に身に付けられるようにする。本単元の後には、今回学んだことを生かせるように、家の人に向けて2年生の楽しかったことを詳しく伝える文章を書く活動を予定している。

3 単元の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

(1) メモをもとにして組み立てを考え、書きたいことが明確になるように書く。 (B-24)

(2) 自分が経験したことを1年生に伝えるために、具体的に書くために必要な事柄をメモに書き出して増やしたり、選んだりすることができる。 (B-8・9)

(3) 2年生の思い出を1年生に伝える文章を書くことに関心を持ち、出来事や気持ちが具体的に伝わるように作文を書こうとしている。 (B-9・24・40)

4 単元の構想（総時数9時間）※「見方・考え方」を働かせた学習活動

くみ立てを考えて書き、知らせよう ～こんなもの、見つけたよ～

◎本単元で育む主な資質・能力
 書くために必要な事柄をノートやカードに書き出し、書こうとする題材に必要な事柄かどうかを確かめる。（B-9）

時間	学習活動	教師の主な支援	評価（本校の資質・能力との関連）
1・2	(1) 学習課題と学習計画を立て、書く題材を決める。	<ul style="list-style-type: none"> 本単元の学習への意欲を高められるように、1年生に2年生での楽しい経験を伝える文章を書くことを話し合う時間を設定する。 相手に応じた題材を選ぶことができるように、1年生が経験していないという観点で題材を絞り込む時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しかったことを1年生に伝えるという目的に応じた題材を選んでいく。（B-8）
学習課題 2年生で楽しかったことを1年生にくわしくつたえる文しょうを書こう。			
3・4 5	(2) メモを書く。	<ul style="list-style-type: none"> 経験したことから書く事柄を見付けられるように、どんなことを思い出せばよいかを話し合い、「したこと」「見たこと」「聞いたこと」「気持ち」などの観点でメモを書くことを確かめる時間を設ける。 ○どのグループも具体的な事柄を引き出す質問をし合えるように、具体的に書いているメモとそれを引き出した質問を全体の場で紹介し、参考にするように促す。 増やしたメモの中から、必要なものを選んで組み立てを考えることができるように、まず、一番伝えたいことを選び、その後にそれを詳しく伝えるために必要な事柄を選んでいくことを確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 選んだ題材について、書くことを見付け出し、メモに書き出さなければならぬことを選び、必要に応じてメモを選ぶ。（B-9）
6・7・8	(3) メモをもとにして、作文を書く。	<ul style="list-style-type: none"> メモをもとにしてどのような作文を書けばよいかを具体的に掴むことができるように、全体の場でモデルメモをもとにして作文の書き方を考える時間を設ける。 作文を見直す視点がもてるように、出来事を羅列しただけのモデル文と会話や擬音語や擬態語、比喩表現が用いられているモデル文を提示し、どちらが良いか、また、その根拠は何かを問う。 間違いがないか確かめながら清書できるように、作文を正しく書くためのチェックポイントを話し合う場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> メモをもとにしながら、出来事や気持ちを具体的に書いている。（B-24）
9	(4) 書いた作文を読み、感想を伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> 読み手の感想を踏まえて振り返ることができるように、読み合う際には具体的に書いているかを相互評価した上でよさを伝え合う活動を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的に書いているかという視点で自分や友達の良いところを見付けていく。（B-40）

◎本単元の学習活動で働かせる主な「見方・考え方」
 伝えたいことを具体的に書くために、様子、方法、程度、理由などの材料を集め、相手に分かってもらうために必要な事柄を取捨選択する。

2年生の楽しかったことを家の人につたわるように書こう
 ～気になる記号～(3年)

5 本時の実際（4／9）

(1) ねらい したことや出来事，考えたことを詳しくする言葉に着目し，自分が経験したことが1年生に伝わるようにメモを書くことができる。 (B-9)

(2) 展開 ○省察を通して，自律的に学習を進めるための支援

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の支援 評価
3分	<p>① 本時の学習問題を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 出来事や気持ちを1年生に伝えられるように，メモを増やしたいな。 <p>学習問題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 1年生にも伝えるためには，どんなことを増やせばよいのかな。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> メモを増やす必要性を再確認することができるように，少ないメモをもとにした内容の薄い作文を提示し，具体的に伝えるためにメモを増やしていくことを確かめる。
17分	<p>② 1年生に伝えるためにどのようなことを増やしたらよいか話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">想定される質問を一般化した言葉</div> <ul style="list-style-type: none"> どんな（様子など） どうやって（手段） どのくらい（程度） どうして（わけ） 	<ul style="list-style-type: none"> どのようなメモを増やせばよいか分かるように，全体の場でモデルメモについて分からないことやもっと知りたいことを出し合いながらモデルメモを増やす活動を設定する。 個人が選んだ題材に応用してメモを増やすことができるように，全体の場で出てきた質問を一般化した言葉で板書する。
20分	<p>③ メモを書き足す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">予想されるメモの内容とそれを引き出す質問</div> <ul style="list-style-type: none"> 「ザクッという音がした」（鎌で切るとき，どんな音がしましたか。） 「手の平くらいの大きさ」（ナスはどのくらいの大きさになりましたか。） 「50年もお店が続いている」（どうしてすごいと思ったのですか。） 	<ul style="list-style-type: none"> メモを書く意欲を高め，1年生に伝えるために不足していることを自覚することができるように，どんなことを増やせばよいかを話し合った後に，一人でメモを書く時間をとる。 全員がメモを増やすことができるように，メモの枚数が少ない人から順に話し合うことを確認する。 ○ どの題材のグループも具体的な事柄を引き出す質問をし合えるように，具体的に書いているメモとそれを引き出した質問を全体の場で紹介し，参考にするように促す。 次時に組み立てを考えるとときに，詳しく伝えるために必要なメモを見付けやすいように，前時と本時とでメモを書く付箋紙の色を変える。
5分	<p>④ 学習をふり返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ザクッという音がした」というメモを増やせた。どんな音か書けた。 「手の平くらいの大きさ」というメモを増やせてよかった。大きさを1年生にも伝えられそう。 「50年もお店が続いている」というメモを増やせてよかった。○○さんの「どうしてすごいと思ったのですか。」という質問で増やせた。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学びを実感できるように，メモの中で一番増えてよかったと思うものを選び，ふり返る場を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 自分が経験したことを相手に伝えるために必要な，様子，方法，程度，理由などのメモを増やしている。 〈B-9〉（シート・発言） </div>